

---

# 母情（ぼじょう）

猫目石

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】  
母情<sup>ぼじょう</sup>

【Nコード】  
N0780T

【作者名】  
猫目石

【あらすじ】  
骨喰いの井戸を通して戦国時代へ戻ったかごめ。  
かごめを送り出した母の心情を小説にしてみました。  
明日は『母の日』に因んで、この作品を公開します。  
(^o^)

娘が、かごめが骨喰いの井戸の向こうへ旅立った。

こんな日が、何時か来るのではないかと思っていたわ。

あの日、一度は消滅した骨喰いの井戸から三日後、かごめが、犬耳の彼、犬夜叉君と一緒に戻って来た日から。

そう、あれはもう三年も前の出来事。

不思議な運命に導かれて私の娘、かごめは戦国時代と現代を行き来するようになっていた。

丁度、十五歳の誕生日を迎えた日に、かごめは骨喰いの井戸で行方不明になり三日後に戻って来た。

かごめ失踪の際、一緒に居た弟の草太の話によると気持ち悪いムカデ女の妖怪が、かごめを隠し井戸に引き込んで連れ去ってしまったのだと。

始めは私もお爺ちゃんも作り話にしか思えなくて信じる事が出来なかったけど、三日後に戻って来たかごめの話を聞くと、やっぱり、それは本当だったと納得するしかなかった。

かごめは失踪当事のセーラー服ではなく時代がかった巫女の着物を着ていたしアチコチすり傷だらけで右頬には何か鋭い刃物で切ったらしい跡まであったの。

私の嫁いだ家、日暮神社は、それは古い由緒ある神社で境内には樹齢五百年と云われる御神木や曰くありげな隠し井戸が存在する。

骨喰いの井戸と呼ばれる如何にも気味の悪い、その隠し井戸の由来は、お爺ちゃんの説明によると物の怪の亡骸を何処かに消滅せしめる妖しの井戸なんですって。

夫が若くして亡くなった後、姑も早くに亡くなり神主をしている舅のお爺ちゃんと二人の子供、姉娘のかごめに弟の草太、それに私の

家族四人で仲良く平和に暮らしていた。

あの運命の日が来るまでは。

かごめが三日ぶりに戻ってきてホッとしたのも束の間、家族揃ってオデンの夕食を取っていたら、いきなり現れたのが犬耳の彼、犬夜叉君だった。

今時の若者にしては珍しい真っ赤な着物を着て髪の色は白銀、目の色は金色、平均的日本人からすると凄く派手よね。

アッ、でも、最近はヘアダイやカラコンが流行ってるけど、それでも目立つのは確か。

何より真っ先に目に付いたのが耳だったわ。

丸い人間の耳じゃなくて秋田犬のように真っ白な犬の耳をしてたの。

アレには驚いたわ。

ついつい本物かどうか確かめたくて触らせてもらってたんだけど。

感触はどうだったかって？

フニフニして気持ち良かったわよ。

草太とも話したんだけど、あれはチョツと癖になりそうな感じだったわ。

かごめも初めて犬夜叉君と出会った時、同じ事をしたんですって。フフッ、やっぱり親子よねえ。

アラッ、いけない、何処まで話したんでしたっけ？

そうそう、思い出したわ。

犬夜叉君が来たら、かごめが血相変えて骨喰いの井戸のある祠へ入って行ったのよ。ほじら

そして、そのまま二人で祠に籠もって、又、井戸の中に消えちゃったの。

今度は三日も居なくなるなんて事はなくて暫くしたらかごめは戻ってきたんだけど。

改めて、かごめの話が何もかも本当の事なんだって実感させられたわ。

それにしても不思議な話よね。

私の娘が戦国時代と現代を行き来するなんて。

然も骨喰いの井戸を通じてアチラの時代に行けるのがかごめと犬夜叉君だけなんて。

一応、試してみただけど爺ちゃんも草太も私も駄目だったの。

涸れ井戸の中に入ってみても、全然、何も起きなかったわ。

それ以後、かごめは頻繁にアチラとコチラを行き来するようになって学業との両立が大変そうだった。

かごめは頑張り屋さんだから一度も泣き言を云わなかったけど、本当、とっても大変だったろうと思うわ。

成績は、元々、かなり良い方だからそんなに心配なかったんだけど（数学は例外）問題は出席日数よね。

あんなに、しょっちゅうアッチの世界へ行ってたんだもの。

お爺ちゃんが捻り出す病気の口実も、あんまり頻繁だから、段々、ネタが尽きてきちゃって、その内、とんでもない欠席理由を届けるようになってたわね。

ギックリ腰だの神経痛だのリュウマチや通風だなんて、若い娘にあるまじき病気ばかりよね。

挙句の果てに脚気<sup>かつけ</sup>まで飛び出してきて。

ハア〜そんな病気、現代の日本じゃ、まず有り得ないわ。

そんなムチャクチャな理由でも、一応、納得してもらえたって事は日頃のかごめの素行の良さのおかげよね。

とまあ、そんな訳でかごめは戦国時代と現代との二重生活を送るようになったの。

定期テストや模試がある時は無理矢理にでもコッチに戻ってくるんだけど、そんな時でも、絶対、三日に一度は犬夜叉君がコッチに来てたのよ。

そんなにかごめの顔が見たかったのかしら。

クスクスッ、本当にマメよね。

あの律儀りちぎさには、正直、頭が下がったものだわ。

かごめによると、この日暮神社に代々伝わる四魂の玉の話。

その四魂の玉が実際に戦国時代に有ったんですって。

四魂の玉を守っていた桔梗という巫女さまが玉を巡る争いで非業の死を遂げた際、四魂の玉も一緒にあの世に持っていたそうなの。それなのに、その四魂の玉が選よりにも選よってかごめの横腹にあったんですって。

それを井戸から現れた妖怪が（百足上臆【むかでじょうろう】って云うらしいの）かごめのお腹を喰い破って玉を出したと聞いた時は思わずゾッとしてしまったわ。

後で見たらそんなに酷い傷跡にはなってなかったからホッとしたんだけど。

女の子の身体に傷を付けるなんてトンデモナイ話よね。

そんな訳で色々びっくりと吃驚する事ばかり。

まさか、かごめのお腹の中にそんな物が入ってたなんて。

かごめは、その桔梗って云う霊力の高い巫女さまの生まれ変わりなんですって。

だから、それを嗅ぎ付けた妖怪が骨喰いの井戸から現れて四魂の玉を体内に隠し持っていたかごめを戦国時代に引き摺ずり込んだ、という訳らしいの。

おまけに、その四魂の玉を、かごめったら矢で砕いてしまったんですって。

それで、何十か何百か判らないけどアチコチに散らばった四魂の玉の欠片を集めて元の玉に戻さなきゃいけない事になってしまった。

何でも四魂の玉には凄い妖力があって、玉を手に入れた者はその力を使ってどんな野望でも叶えられると云われているらしいの。

妖怪だったら途轍もない妖力を得る事が出来るし、仮に人間が持つ

たとしても戦乱の世ならどんな立身出世も栄達も思いのままだよ。

まるで『願い事、何でも叶えます』って云う万能の玉みたい。そのせいで昔から、人間、妖怪の区別なく四魂の玉を巡っての争いが絶えなかったらしいわ。

だから、ほんの一欠片でも力の強い妖怪の手に渡ったらトンデモナイ災いの素<sup>もと</sup>になってしまうんですって。

そんな訳で、かごめは四魂の玉の欠片を集める為に戦国時代と現代を行ったり来たりしてたの。

それから、犬夜叉君、ウーゥン、彼は何でも犬妖怪のお父さんと人間のお母さんの間に生れた“半妖”なんですって。

だから半分が妖怪で半分が人間。

あの白いフニフニの犬耳は、きっとお父さん譲りなのね。

とっても綺麗な白銀の髪も金色の目も、そう。

でも、何故か、朔の日、つまり新月の夜は人間の姿に戻るそうよ。

犬耳が人間の耳になって髪も目も黒くなるんですって。

かごめは、もう何度か見たらしいわ。

今のままでも、かなりの男前だから、きっと人間の姿になってもハンサムボーイなんでしょうね。

どれくらいハンサムかって？

そうねえ、ジャーニーズ事務所に軽く入れる程度じゃないかしら。

かごめも我が娘ながら中々の器量良しさんだから二人並ぶと、とてもお似合いだったわ。

初々しい恋人達って表現がピッタリ。

アッチの世界では犬夜叉君がかごめをボディガードしてくれてたんですって。

彼、半妖なだけあって、とっても強いらしいの。

お父さんが大妖怪で、そのお父さんから譲られた鉄碎牙って刀が、

これまた凄いんですって。

普段はボロボロの錆び刀にしか見えないけど変化すると、とっても大きくてゴツイ刃の刀に変わるそうなの。

『風の傷』という技で一度に百匹もの妖怪を薙ぎ倒せるらしいの。

『風の傷』以外にも修行して色々な技を使えるようになったって、以前、かごめが教えてくれたわよね。

エライわ、犬夜叉君、とっても努力家なのね。

草太も見習わなくっちゃ！

男の子なら好きな女の子の一人や二人、守れなくっちゃ。

かごめも、アツチの世界で何度も危ない処を犬夜叉君に守ってもらったそうよ。

アツ、そう云えばコツチの世界でも四魂の欠片を持った能面のお化けから助けてもらったって草太が話してたわね。

そんな経緯もあって、彼、かごめの弟の草太とも結構、仲が良かったの。

男兄弟が居ないから何だかお兄さんが出来たみたいで嬉しかったんじゃないかしら。

かごめや草太の話から判断すると犬夜叉君って、一見、ぶっきらぼうだけど、その実、とっても優しい人みたい。

ウフフツ、強くて優しい彼氏か。

かごめ、人を見る目があるわね、良い選択だわ。

かごめと犬夜叉君を見ていると、まるで昔から何時も二人でいたような何の違和感も感じさせない、そんな自然さが有ったわ。

母親の勘とでも云えば良いのかしら。

かごめが犬夜叉君と一緒に居る場面を何度も見る内に、それはドン・ドン予感から確信に変わっていった。

何時の日か、かごめは犬夜叉君と一緒に行ってしまうのではないかって思うようになってたの。

そして、その日は、きつと、そんなに遠くないだろうって。

そう覚悟してたんだけど、イザ、そうなってみると。



・・・駄目ね。

笑って・・・送り出して・・・あげたかったのに。

実際には・・・涙を・・・堪える事しか・・・出来ない・・・なんて。

この井戸を・・・通り抜けて・・・かごめは・・・行ってしまう。

多分・・・もう・・・二度と・・・戻っては・・・来れない・・・アッチの世界へ。

この三年間は・・・神さまが・・・私達家族に・・・与えて下さった・・・別れ・・・の・・・時・・・だった・・・のね。

かごめ・・・かごめ・・・私の赤ちゃん。

私が・・・お腹を痛めて・・・産んだ・・・可愛い・・・私の・・・初めての・・・赤ちゃん。

大事な・・・大事な・・・私の・・・愛娘。

出来る事なら・・・戦国時代になんて・・・行かせたく・・・ない。

近頃は・・・随分と物騒に・・・なったけど。

・・・それでも・・・危険な戦国時代・・・に比べれば・・・遥かに・・・安全な現代に・・・居て欲しい。

でも・・・それは・・・母親としての・・・我がままね。

あなたは・・・見つけたのよね。

自分の運命を・・・何よりも・・・誰よりも・・・大切な・・・唯一人の・・・運命ひとの男を。

だから・・・行きなさい・・・あなたの・・・心が望むままに。

私は・・・ここで・・・ズツと・・・祈っているわ。

かごめ・・・あなたの・・・ウウン・・・かごめと犬夜叉君の・・・これからの人生が・・・幸せで・・・あります・・・ようにって。

了



(後書き)

《第四十七作目『母情』についてのコメント》

最後の部分を書いてたら、涙が、涙が、溢れて止まりませんでした。

ボロボロ涙を零しながら書いた二度目の作品です。

管理人、決して涙もろいタイプではありません。

寧ろ、中々、泣かない部類の人間です。

そんな管理人を、これほど泣かせた作品は初めてです。

かごめの母の、ママの心情を思うと万感、胸に迫る物があります。

大切な愛娘を二度と戻れない戦国時代へと送り出す母親。

どんなにか切ない思いだった事でしよう。

管理人自身、二人の子供の母ですから痛いほどその気持ちが想像できます。

途中、脱線したりして完成が遅くなりましたが何とか十日ほどで完成に漕ぎ着けました。

多少、遅くなりました事を此処にお詫び致します。

★★★

猫目石

→ → →

当時のコメントです。

今、読み返しても思わずウルツと来そうです。

明日は母の日だからと娘がホットケーキを作ってくれました。

娘は娘なりに母親に感謝してくれてるようです。

(● ^ O ^ ●)



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0780t/>

---

母情（ぼじょう）

2011年7月9日04時53分発行